

下記のとおりお知らせしますので、[\[参加募集の案内/当日取材\]](#)をお願い申し上げます。

第 128 回サイエンス・カフェ札幌

「アートと科学哲学からの、想像力をめぐる対話」を開催

【概要】

北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）は、第 128 回サイエンス・カフェ札幌を開催します。今回のカフェのゲストはアーティストの平川紀道さんと、科学哲学者のローマン・フリッグさんです。アートと科学における想像力の関係、両者のちがいについて考えます。

【趣旨】

想像力とは、現実には生じていない物事を思い浮かべる能力です。作品として表現する過程においても、科学的な探究においても、想像力を働かせることはとても重要です。今回のカフェでは、アートと科学哲学という分野で独自の視点で活動しているゲストと一緒に、アートと科学における想像力の関係性について話し合います。

アーティストの平川紀道さんは、もっとも原始的なテクノロジーとしての「計算」に注目しています。私たちの世界の裏側には無数のシステム、そしてそれを把握するための計算が動いています。しかしそれらの裏側の世界は通常表には出てきません。モエレ沼公園で展示した《datum》をはじめ、計算結果を通して世界を再構成していく彼のインスタレーション作品は、私たちに世界の裏側にある存在について想像させます。

もう一人のゲスト、ローマン・フリッグ（Roman Frigg）さんは、フィクション理論を唱える科学哲学者です。想像力は、科学的探究にとって不可欠であるだけでなく、科学という営みの中核にあるとフリッグさんは主張します。計算や実験よりも、想像力を用いたモデルの構築こそが、科学にとって本質的であるという考えは、近年、科学哲学の分野で注目されているものです。

また、フリッグさんと共同研究をしている北海道大学大学院理学研究院教授の松王政浩さんがコメンテーターとして登場します。平川さんとフリッグさんの視点について、想像力から作られるフィクションとリアルの見方について、コメントをいただきます。

想像力の働きは、各々の活動によって異なるのでしょうか。想像力が創り出す物語や、それを通して見る現実はどのように交差するのでしょうか。今回のカフェでは、想像力について、それぞれの視点から想像していきます。

【タイトル】 第 128 回サイエンス・カフェ札幌

「アートと科学哲学からの、想像力をめぐる対話」

【日 程】 2023 年 2 月 24 日(金) 18:00~20:00

【場 所】 札幌市図書・情報館（札幌市民交流プラザ内 1 階、札幌市中央区北 1 条西 1 丁目）

【ゲ ス ト】 ローマン・フリッグ Roman Frigg (London School of Economics)

平川 紀道 (アーティスト)

松王 政浩 (北海道大学大学院理学研究院 教授)

【聞 き 手】 朴 炫貞 (北海道大学 CoSTEP)

【主 催】 北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP・コーステップ)、札幌市図書・情報館

【対 象】 一般市民

【募集人数】 40 人 (事前申し込み不要、先着順)、YouTubeLive による配信でも参加いただけます。

【参 加 費】 無料

【言 語】 日本語 (和・英順次通訳あり)

【協 力】 札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市

* 科研費基盤研究(B)20H01736「統計学的視点を加味した科学哲学による「科学的推論」教育プログラムの構築」 (研究代表者：松王政浩)

【備 考】 YouTubeLive による配信、後日動画配信される予定です。詳しくは CoSTEPWeb ページ (<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/event/26084>) をご確認ください。

お問い合わせ先

北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター

科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 担当：朴 炫貞 (ぱくひょんじょん)

T E L 011-706-5320 F A X 011-706-5320 メール park@open-ed.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学社会共創部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp